

山梨県韮崎市

堂地遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1992

韮崎市教育委員会
峡北土地改良事務所

山梨県韮崎市

堂地遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1992

韮崎市教育委員会
峡北土地改良事務所

序 文

韮崎市では、近年県営圃場整備事業等の大規模開発にともない、数多くの遺跡が発掘調査され貴重な文化財が発見されています。この度発刊された本報告書は、そのような貴重な発見が相次ぐ大規模開発の一端として平成3年度県営圃場事業に伴い発掘調査された堂地遺跡の報告であります。

堂地遺跡からは縄文時代の遺物や、明治時代のもが発見されました。遺跡から出土した遺物は当時の生活用品である土器・陶磁器が主体となっており、貴重な資料を得ることができました。これらの資料は文化遺産として、永く後世に伝えて行かなければならないものです。報告書はそれらの文化財を記録にとどめたものであり、本書が我々の先人の生活と歴史をときあかすための手助けになればと願っております。

末筆ですが、遺跡の発掘調査並びに報告書作成に伴い、多大なる御理解と御協力を賜った関係諸機関及び関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます。

平成4年3月31日

韮 崎 市 教 育 委 員 会

教 育 長 功 刀 幸 丸

例 言

- 1 本書は、県営園場整備事業に伴う堂地遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、峡北土地改良事務所負担金、文化庁・山梨県の補助金を受け、韭崎市教育委員会が実施した。
- 3 本報告書の作成並びに整理作業は、韭崎市教育委員会社会教育課が行い、山下孝司が担当した。

4 凡 例

- ① 遺構の番号は発掘調査現場において付けたものである。
 - ② 縮尺は各挿図ごとに示した。
 - ③ 挿図中のドットは焼土をあらわす。
 - ④ 写真図版中遺物に付けられた番号は、実測図の番号と対応する。
- 5 発掘調査及び報告書作成に当たり、多くの方々から御指導・御協力をいただいた。一々御芳名を上げることは割愛させていただくが、厚く御礼を申し上げる次第である。
 - 6 発掘調査・整理によって出土並びに作成された遺物及び資料は、韭崎市教育委員会において保管している。

調 査 組 織

- 1 調査主体 韭崎市教育委員会
- 2 調査担当 山下孝司（韭崎市教育委員会社会教育課）
- 3 調査参加者
深沢真知子・石原ひろみ・小野初美・有賀京子・三井福江・石原復治・石原かよ・内藤富重・岡田順子・植松とみ子・内藤ハツエ・内藤正栄・内藤治男・内藤梅代・秋山なほ子・佐藤民雄・望月 高
- 4 事務局 韭崎市教育委員会社会教育課
教育長 功刀幸丸、課長 中島尚武、課長補佐 深谷 卓、係長 横森淳彦、雨宮智子・小田和美

目 次

序	文
例	言
目	次
挿 図 目 次	
写真図版目次	

I 調査に至る経緯と概要	1
II 遺跡の立地と環境	1
III 遺跡の地相概観	2
IV 調査の方法	2
V 遺 構	6
VI 遺 物	9
VII ま と め	20

写 真 図 版

插图目次

第1图 堂地遺跡①と周辺遺跡	3
第2图 堂地遺跡位置図	4
第3图 堂地遺跡全体図	5
第4图 B区遺構	7
第5图 B区遺構	8
第6图 B区井戸跡	6
第7图 遺構外出土土器拓影	11
第8图 出土石器	12
第9图 出土石器	13
第10图 出土石器	14
第11图 出土石器	15
第12图 B区1号土坑出土遺物	18
第13图 B区出土遺物	18
第14图 B区出土鉄器	19

写真図版目次

- 図版1 遺跡遠景・A区排土作業・A区確認作業
- 図版2 A-1-I・A-1-II・A-1-III
- 図版3 A-1-IV・A-2-I・A-2-II
- 図版4 A区発掘風景・A-2-IV・B-1-I
- 図版5 B-1-II・B-1-III・B-1-IV
- 図版6 A区発掘風景・B-2-I・B-2-II
- 図版7 A区トレンチ・B区ピット群・B区1号溝
- 図版8 B区遺構確認作業・B区1号土坑・B区2号土坑
- 図版9 B区3号土坑・B区4号土坑・B区発掘風景
- 図版10 B区遺跡近景・B区井戸跡石積・B区井戸跡内部・B区井戸跡
- 図版11 遺構外出土土器・出土石器
- 図版12 出土石器
- 図版13 B区1号土坑出土遺物・B区出土遺物
- 図版14 B区出土遺物・B区出土鉄器

I 調査に至る経緯と概要

平成3年度県営圃場整備事業実施にともない、本市教育委員会では葦崎市圃場整備室から依頼を受け、事業予定地区を平成2年度に踏査及び試掘を行い、遺跡の存在を確認した。その結果をもとに、峡北土地改良事務所・山梨県教育庁文化課・市教育委員会で協議を行い、堂地遺跡について、圃場整備事業に先立って面積約1600㎡を対象として発掘調査を行い、記録に留め永く後世に伝えることとした。

発掘調査は、平成3年6月初旬より開始し、約2カ月間行った。引き続き、遺物等の整理作業を行い、報告書作成までの作業が完了したのは、平成4年3月であった。

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の立地

堂地遺跡は、山梨県葦崎市円野町上円井字蕪田地内に所在した。堂地遺跡は昭和46年度に分布調査された時に発見され台帳に載った遺跡であり、今回の調査区域はその北端にあたる。

葦崎市は、山梨県の北西部に位置し、甲府盆地の北西端を占めている。市内を貫流する釜無川・堀川により、地形的にほぼ山地・台地・平地の三地域に分けられる。

葦崎市の西部は、南アルプスの連峰が連なり、その前衛に階段状に山々が屹立している。これらの山々からは大小の溪流が流れ出しそれぞれ扇状地をつくりだしている。扇状地の末端は南東流する釜無川によって侵食され急崖となり河岸段丘を形成している。段丘上は山麓の台地と緩傾斜の平坦面に分かれ、台地上は駿信往還が通る交通の要路となっており、中世には辺境武士団武川衆の拠点でもあった。堂地遺跡はこのような釜無川右岸河岸段丘の標高約478m水田・畑下に発見された。

2 周辺の遺跡

番号	遺跡名	時代区分	備考
①	堂地遺跡	縄文・平安・明治	
②	北堂地遺跡	縄文・平安・中世・近世	平成2年度 葦崎市教育委員会調査
③	上本田遺跡	縄文・奈良・平安	
④	中本田遺跡	縄文	昭和61年度 葦崎市教育委員会調査
⑤	中道遺跡	縄文・平安	昭和60年度 葦崎市教育委員会調査

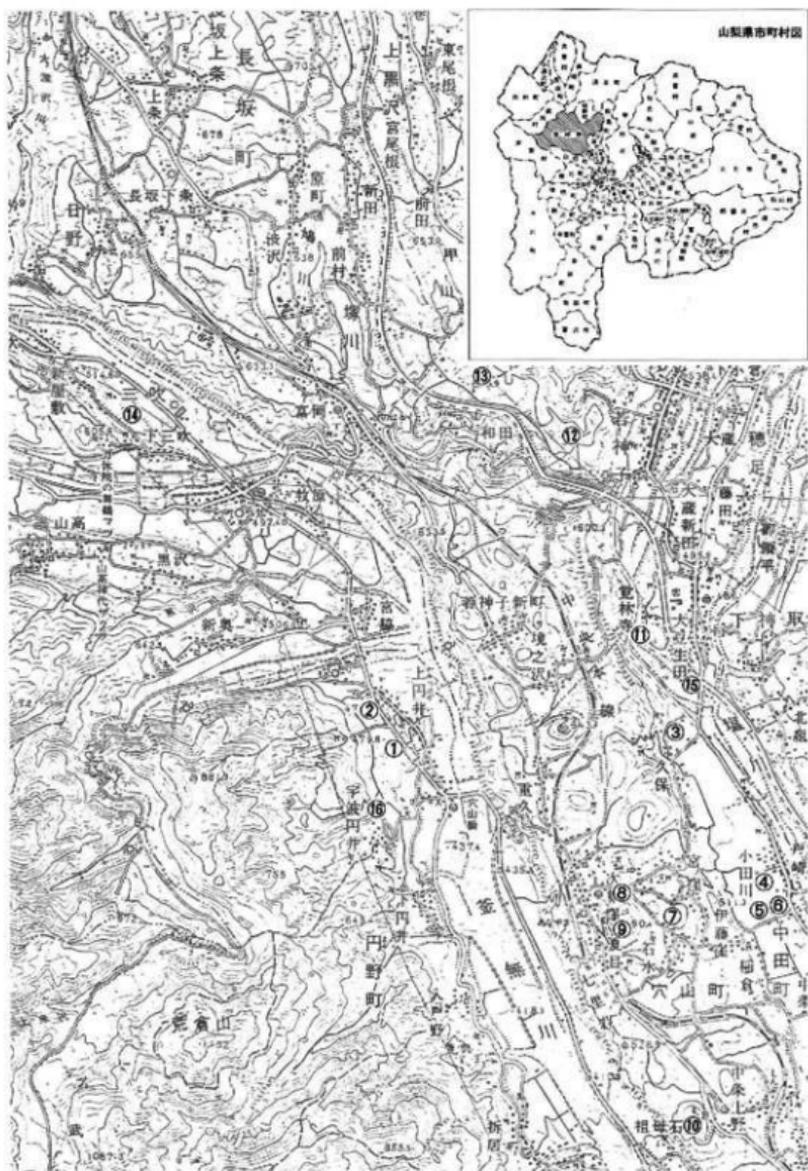
番号	遺跡名	時代区分	備考
⑥	下木戸遺跡	平安	
⑦	伊藤窪第2遺跡	縄文・古墳・中世	平成2年度 荏苒市遺跡調査会調査
⑧	宿尻遺跡	縄文	平成3年度 山梨県埋蔵文化財センター調査
⑨	能見城	中世城郭	
⑩	新府城跡	中世城郭	国指定史跡
⑪	大豆生田遺跡	縄文・弥生・平安	昭和49年度 山梨県教育委員会調査
⑫	大小久保遺跡	平安	昭和57年度 須玉町教育委員会調査
⑬	湯沢遺跡	平安	昭和58年度 高根町教育委員会調査
⑭	宮間田遺跡	平安	昭和60・61年度 武川村教育委員会調査
⑮	大豆生田砦	中世	
⑯	宇波円井遺跡	縄文	

Ⅲ 遺跡の地相概観

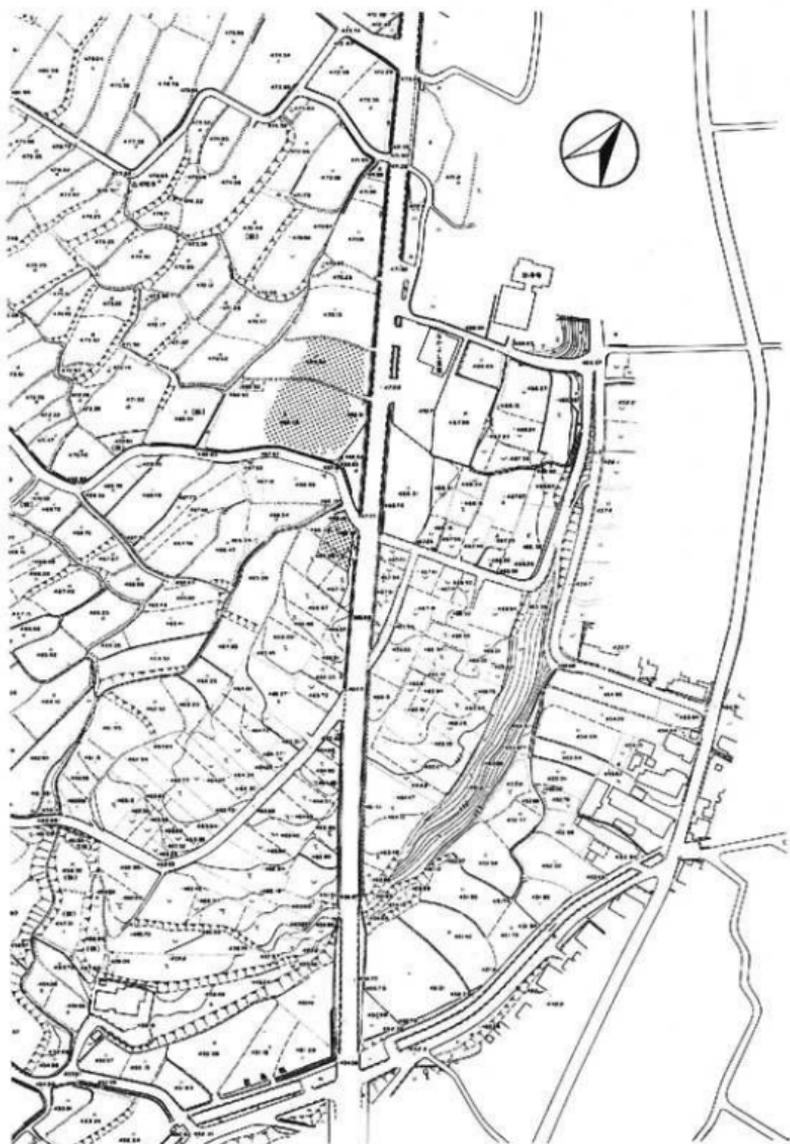
堂地遺跡は、県営圃場整備事業に伴い平成3年度に発掘調査された北堂地遺跡から南へ30m程離れた所に位置する。昭和46年度の分布調査によると北から南へ流れる小沢と段丘崖に挟まれた舌状台地の畑が遺跡であり、今回はその北端が調査区域であった。国道を挟んだ崖下の旧国道沿いに上円井の街村がある。まわりは水田や畑となっている。調査区域は便宜上A区とB区の2区域に分けた。A区では水田床土下の暗褐色系～黒褐色土層中から土器が確認され、それを取り除くと粘質の灰黄褐色系土となる。B区では耕作土の下はローム層となり、掘り込まれた遺構の確認はローム層面でおこなった。

Ⅳ 調査の方法

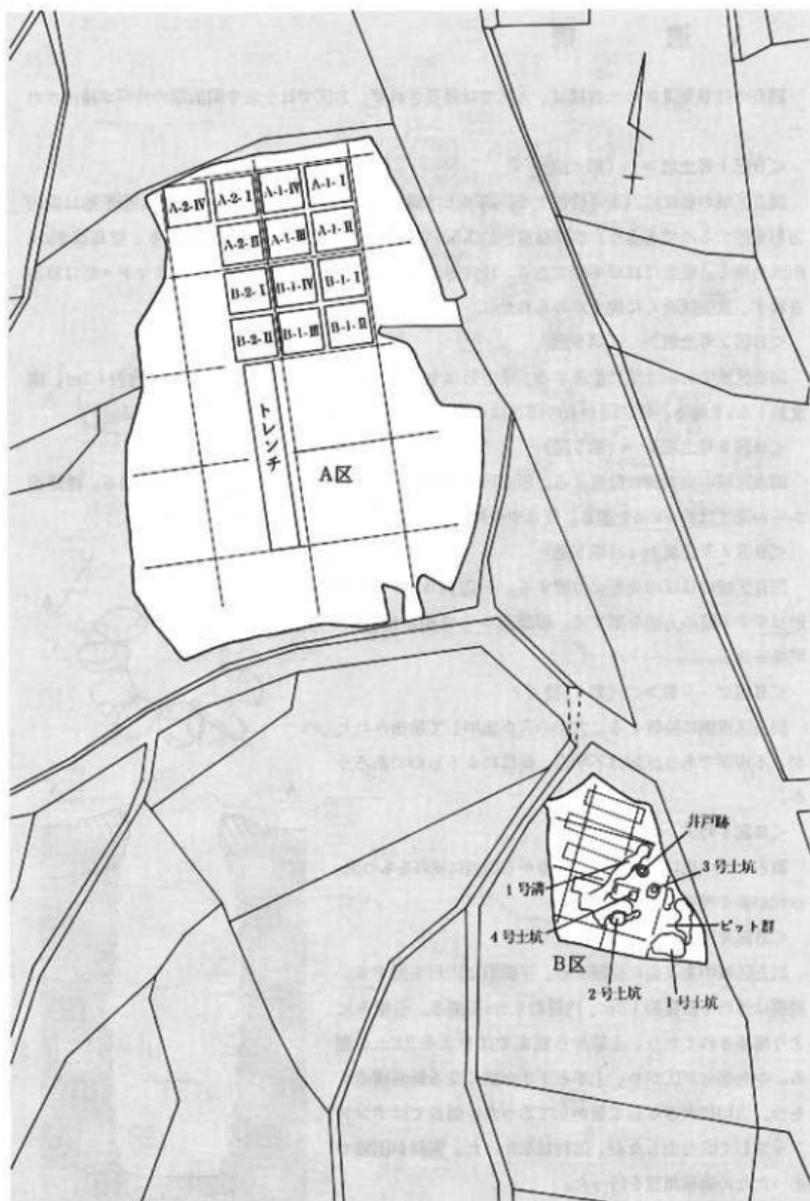
地形を考慮し任意に10m方眼を設定し、前述の如く便宜上A区・B区に分けて調査を行った。耕作土・表土を排除した後、鋤鎌等により精査を行い、遺構確認の後、掘り下げを行った。遺物が出るが遺構の確認困難な箇所はグリットの掘り下げを行い調査を実施した。



第1図 堂地遺跡①と周辺遺跡 (1:50,000)



第2圖 堂地遺跡位置圖 (1:2,500)



第3図 堂地遺跡全体図 (1:600)

V 遺 構

調査の結果発見された遺構は、A区では発見されず、B区では土坑や明治期の井戸が検出された。

<B区1号土坑> (第4図)

調査区域のほぼ南西端に位置する。南半部は調査区域外で完掘できなかった。平面形態は隅円方形を呈するのであろう。規模は東西約3.5mを測る。壁はやや外傾し立ち上がり、壁高は20cm前後を測る。底面はほぼ平坦である。柱穴等の内部施設は確認されなかった。カマド・炉は検出されず、東側壁近くに焼土がみられた。

<B区2号土坑> (第5図)

調査区域中央南半部に位置する。平面形はやや不整の方形を呈する。規模は東西約1.2m、南北約1.4mを測る。確認面からの深さは40cm前後を測る。壁はやや外傾し立ち上がる。

<B区3号土坑> (第5図)

調査区域中央東側に位置する。平面形はほぼ円形を呈する。規模は径約1.25mを測る。確認面からの深さは約60cmを測る。壁はやや外傾して立ち上がる。南側に小穴がある。

<B区4号土坑> (第5図)

調査区域のほぼ中央部に位置する。一辺約80cmで平面形はやや不整の方形を呈する。確認面からの深さは10cm前後を測る。

<B区ビット群> (第4図)

調査区東側に位置する。大小の穴が集中して検出されたが、不規則であり詳細は不明。耕作によるものであろうか。

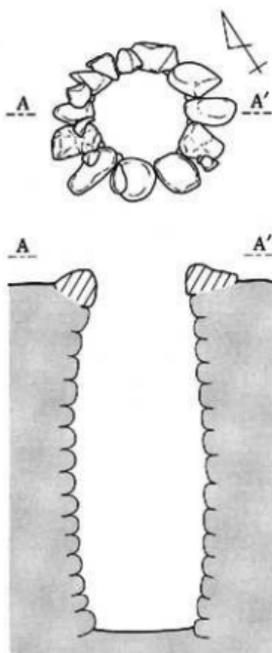
<B区1号溝> (第5図)

調査区域中央に位置する。北東から南西に流れをもつ溝。砂利が多く埋没していた。

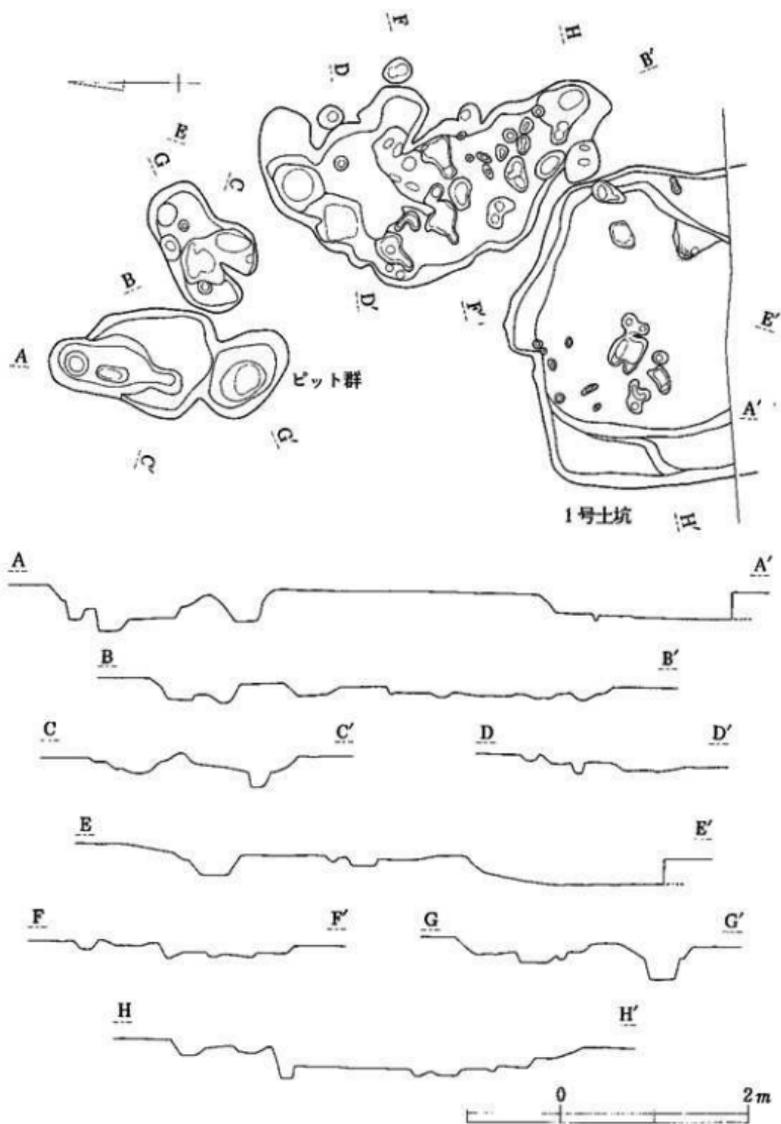
<B区井戸跡> (第6図)

調査区域中央東側に位置する。平面形は円形を呈する。規模は外周の直径約1.3m、内径約0.6mを測る。石積みにより構築されており、上端から底まではおよそ2.2mを測る。中央部分が広がり、上半と下半が狭くなる断面構造をもつ。当初は大きな石で蓋がしてあった。調査ではポンプアップして底を出したが、遺物はなかった。実測が困難であったため簡易測量を行った。

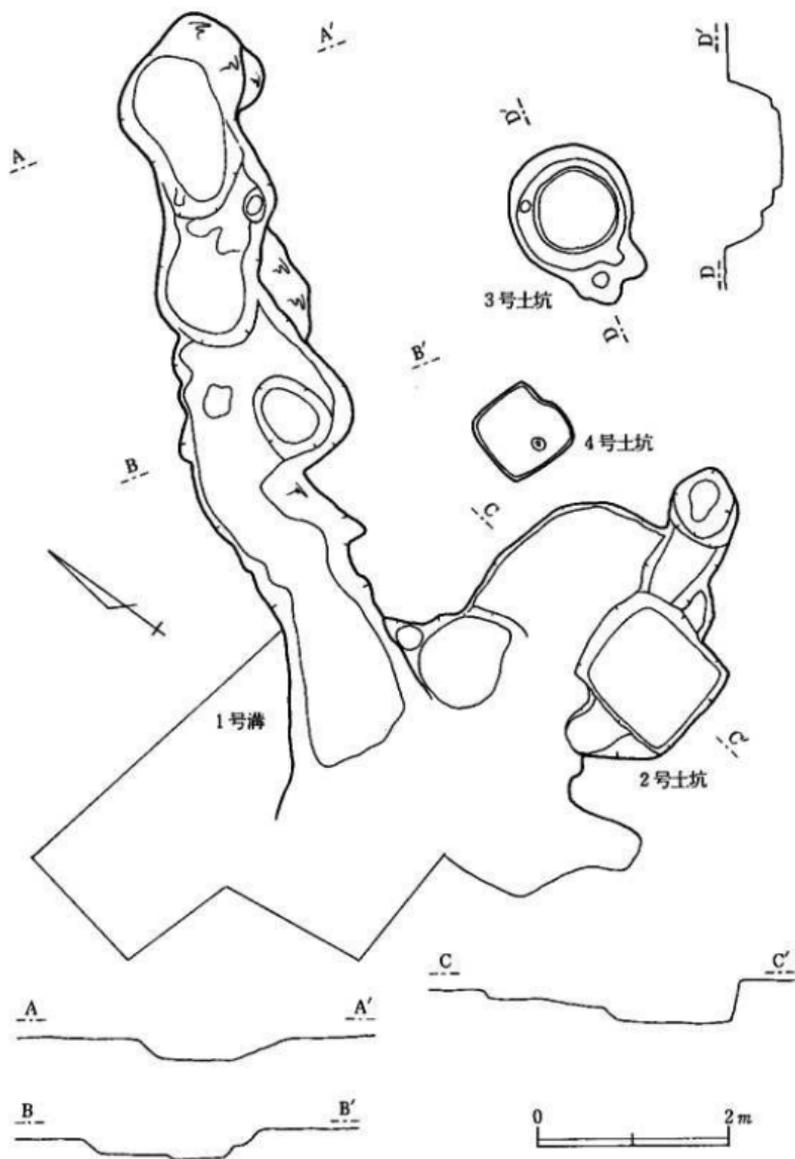
井戸跡は明治の所産と思われるが、他の遺構は不詳である。



第6図 B区井戸跡

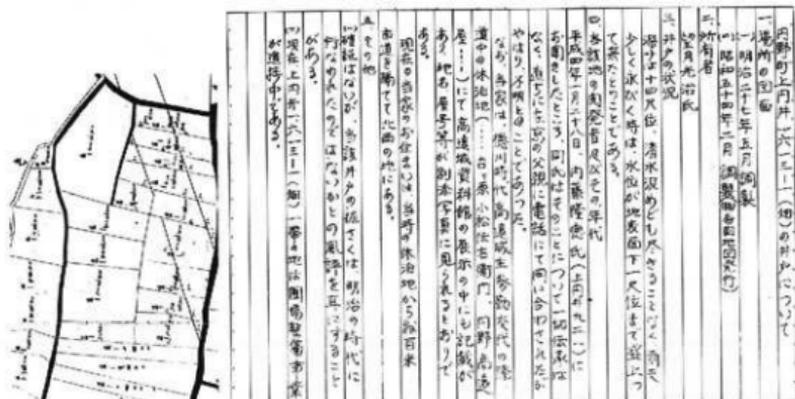


第4図 B区遺構 (1/60)



第5图 B区遺構 (1/60)

付 井戸跡に関して、地元では明治期に当該地に建物があったとの伝承があり、石原復治氏に調査を依頼した。平成4年2月に頂いた調査票を以下に原文のまま掲載しておく。



図面(一)



写真



図面(二)

VI 遺 物

本遺跡から出土した遺物は、遺構に伴うものは少なかった。A区からは縄文時代の物が多く、B区からは明治期のものが出土した。

〈遺構外出土土器〉 (第7図)

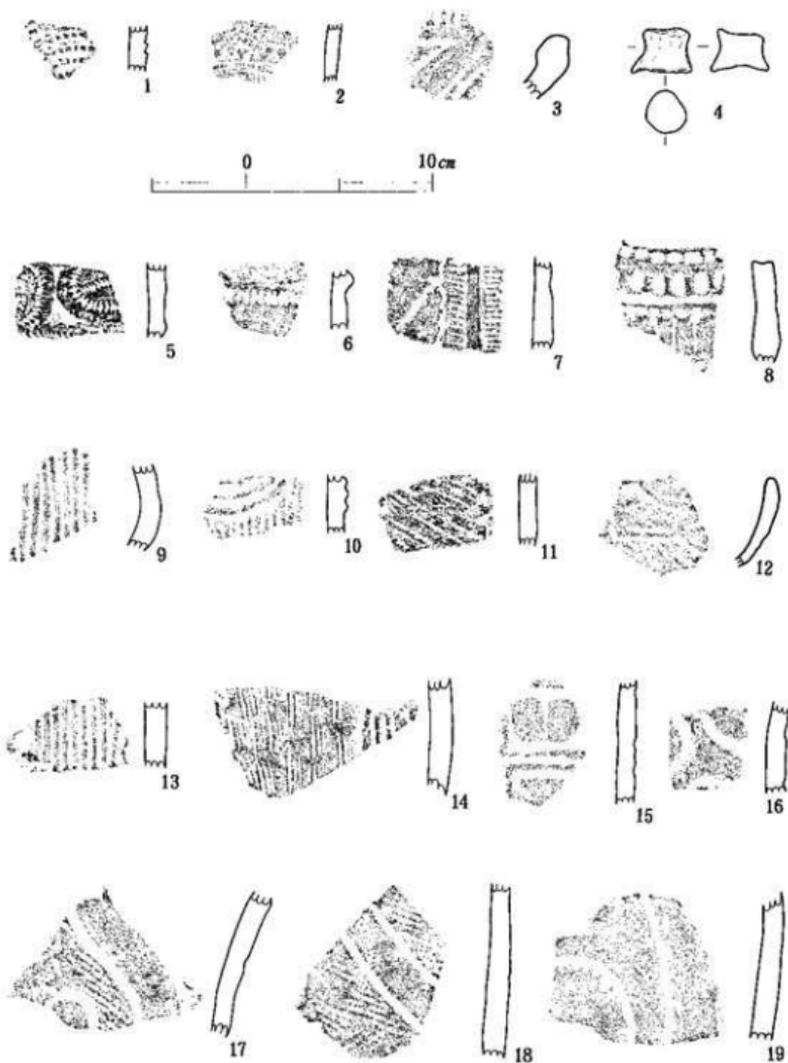
番号	特徴・その他	胎土・色調	出土場所
1	微細隆線を器面に貼り付け、その上を連続押し引きしている。	砂粒を含む・裸肌色褐色	B-1-Ⅲ
2	連続押し引文と、ボタン状貼付文がみられる。	金雲母を含む・裸褐色	A-2-Ⅱ
3	連続押し引文、区画文が施される。磨滅により不鮮明。	砂粒を含む・裸褐色	A-1-Ⅳ
4	断面臼型。一部欠損。耳柱。	砂粒を含む・白褐色	B-1-Ⅲ

番号	特徴・その他	胎土・色調	出土場所
5	楕円区画文。棒状工具による連続押引文。	砂粒を含む・暗褐色	B区表採
6	区画文と連続押引文がみられる。	砂粒を含む・白褐色	A-2-IV
7	隆帯の両側に連続押引文。蛇行沈線文。	砂粒を含む・褪白褐色	A-1-II
8	刺突状の文様と沈線がみられる。	砂粒を含む・褪褐色	B-1-IV
9	沈線文。	砂粒を含む・白褐色	B-2-II
10	沈線・隆線文。	砂粒を含む・褪橙色系	A-1-IV
11	沈線と爪形文がある。	砂粒を含む・褪褐色	B区表採
12	磨滅により不鮮明。	砂粒を含む・褐色	トレンチ
13	沈線文。	砂粒を含む・白褐色	B-1-II
14	沈線隆線文。列点状文が施される。	砂粒を含む・褪肌色系	B区表採
15	沈線による区画文が施される。	砂粒を含む・暗褐色系	B-1-I
16	沈線による文様が施される。	砂粒を含む・白褐色	A-2-II
17	沈線による曲線的な区画文と縄文が施される。	砂粒を含む・白褐色	A-2-II
18	沈線による曲線的な区画文と縄文が施される。	砂粒を含む・白褐色	B-1-IV
19	沈線による曲線的な区画文と縄文が施される。	砂粒を含む・白褐色	B-1-IV

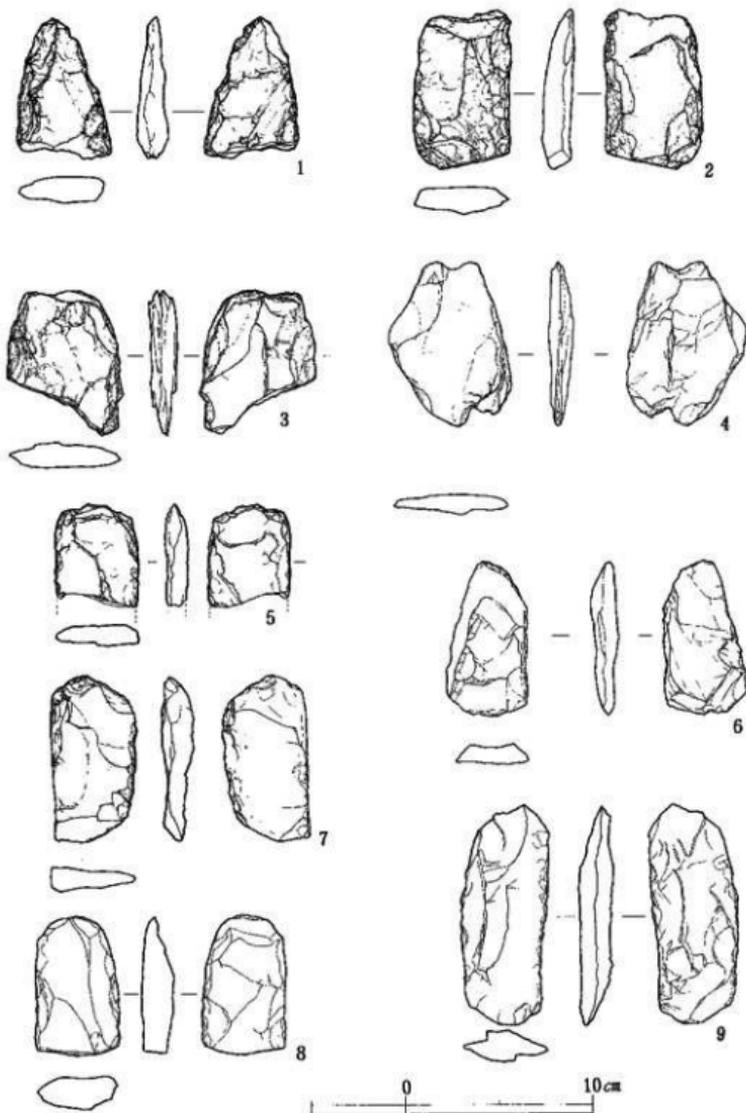
〈出土石器〉 (第8・9・10・11図)

(単位 cm)

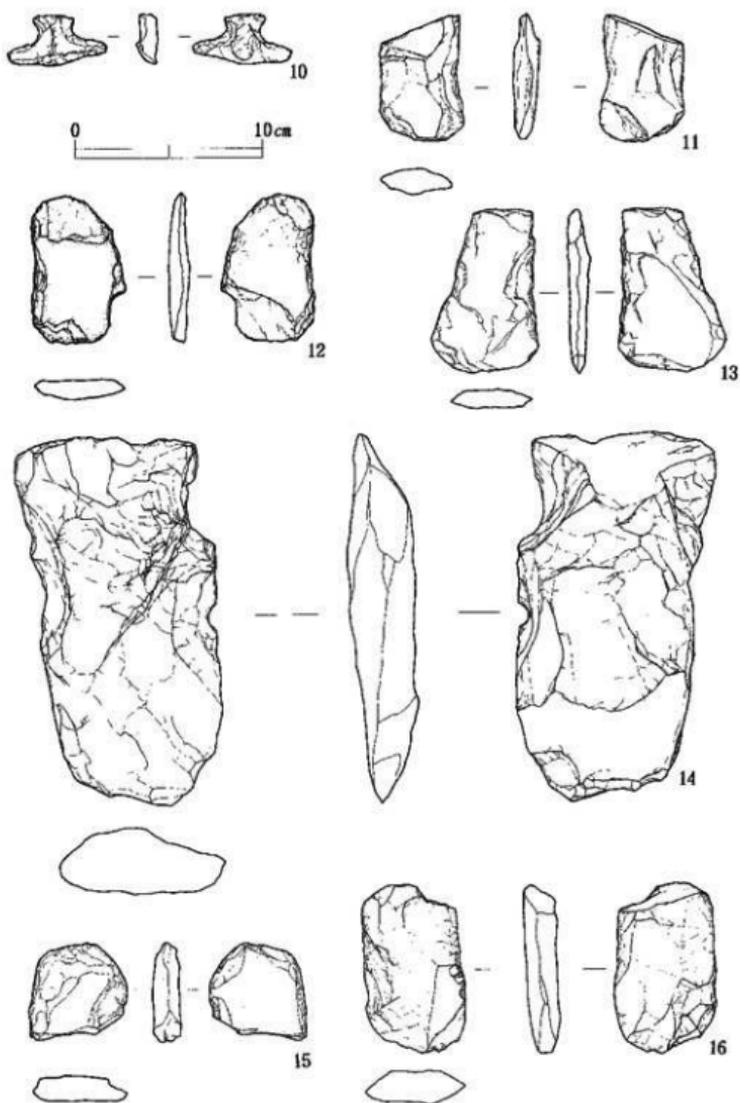
番号	長さ・巾	形態・その他	石質	出土場所
1	—, —	楔形?。刃部欠損。	粘板岩	A-1-I
2	8.0, 5.3	短冊形。一部欠損。	粘板岩	A-1-I
3	—, —	短冊形?。欠損。		A-1-II
4	—, —	短冊形?。一部欠損。挟りがある。	粘板岩	A-1-II



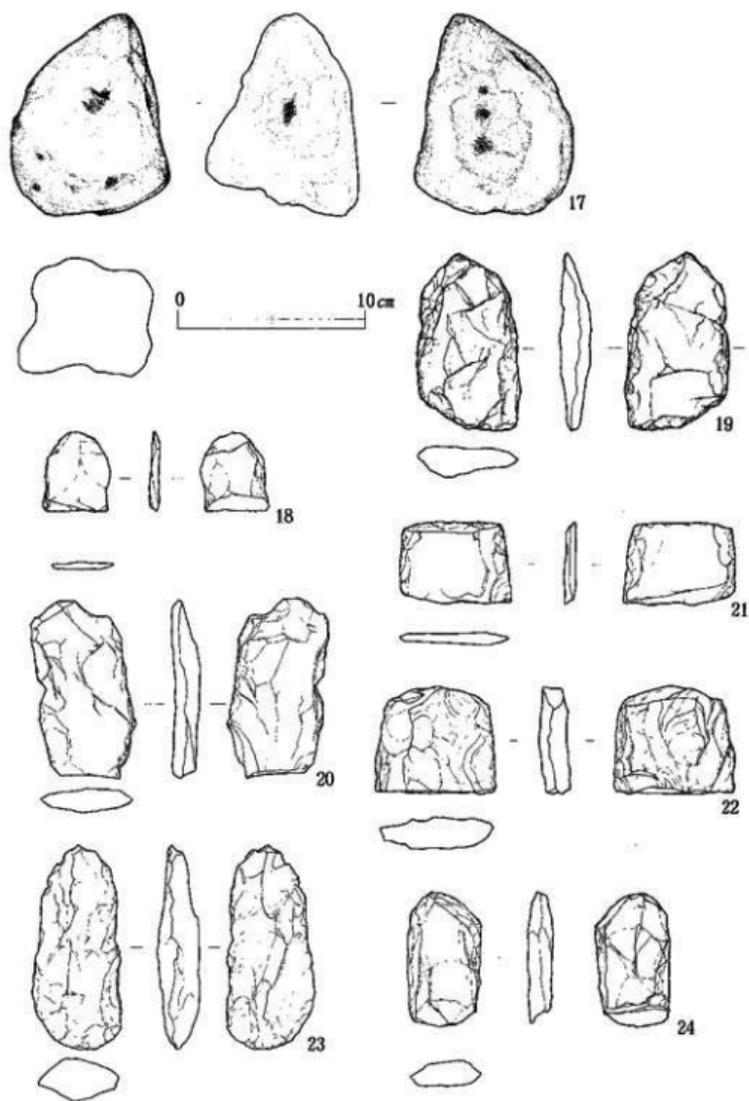
第7圖 遠境外出土土器拓影 (1/3)



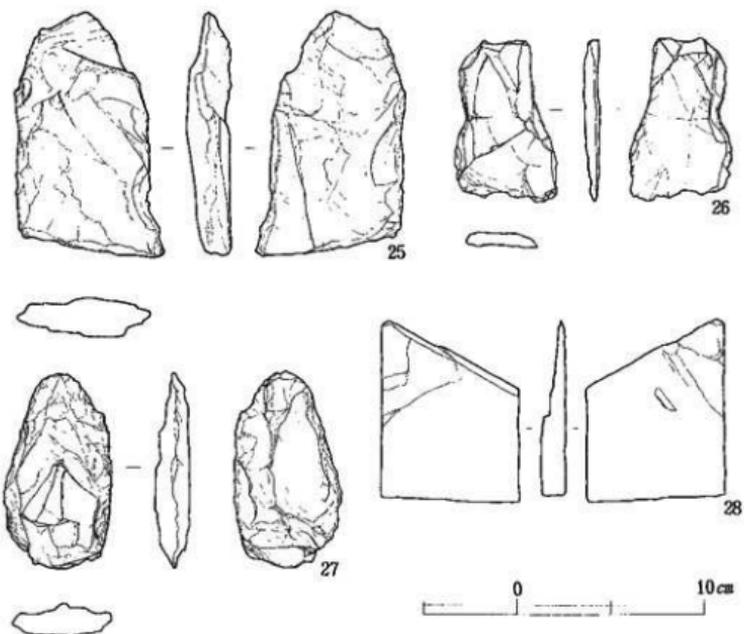
第8圖 出土石器 (1/3)



第9圖 出土石器 (1/3)



第10圖 出土石器 (1/3)



第11図 出土石器 (1/3)

番号	長さ・巾	形態・その他	石質	出土場所
5	—, 4.5	短冊形。破片。		A-1-Ⅲ
6	8.1, 基部 2.6 刃部 4.4	揆形。	粘板岩	A-1-Ⅳ
7	8.9, 4.5	短冊形。未製品か?	粘板岩	A-1-Ⅲ
8	—, —	短冊形。刃部欠損。		A-1-Ⅳ
9	11.7, 4.5	短冊形。	粘板岩	A-1-Ⅳ
10		石匙。		A-1-Ⅳ
11	—, 4.0	短冊形。粉欠損。		A-1-I
12	—, —	短冊形?。欠損。		B-1-I
13	—, —	揆形。一部欠損。		B-1-II

番号	長さ・巾	形態・その他	石質	出土場所
14	—, 9.0	短冊形?。 石の自然面がのこっている。		B-1-Ⅱ
15	—, —	短冊形?。破片。	粘板岩	B-1-Ⅲ
16	—, —	短冊形。一部欠損。		B-1-Ⅲ
17	—, —	凹石。	安山岩?	B-1-Ⅲ
18	—, —	破片。		トレンチ
19	—, 5.2	短冊形。一部欠損。		B-1-Ⅳ
20	—, 5.0	短冊形。一部欠損。		トレンチ
21	—, —	短冊形?。破片。		トレンチ
22	—, —	短冊形?。破片。		B区表採
23	10.9, 4.5	短冊形。		B区表採
24	—, 4.0	短冊形。一部欠損。	粘板岩	トレンチ
25	—, —	短冊形?。一部欠損。		A区表採
26	—, —	揆形。		B区表採
27	—, —	短冊形?。一部欠損。		A区表採
28	—, 7.4	片面は磨かれ、擦痕がある。 石板のたぐいであろうか。		B区表採

<B区1号土坑出土遺物> (第12図)

(単位 cm)

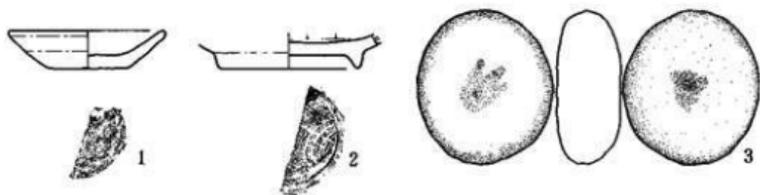
番号	種類	器形	法量	胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径			
1	土師質	皿	2.1, 8.2, 4.0	砂粒を含む	暗褐色系	ロクロ水挽 底部回転糸切り痕 ススけている。 1/2欠損
2	灰釉 陶器	皿?	—, —, 7.4	密	灰白色	破片
3	石器	凹石				

<B区遺構外出土遺物> (第13・14図)

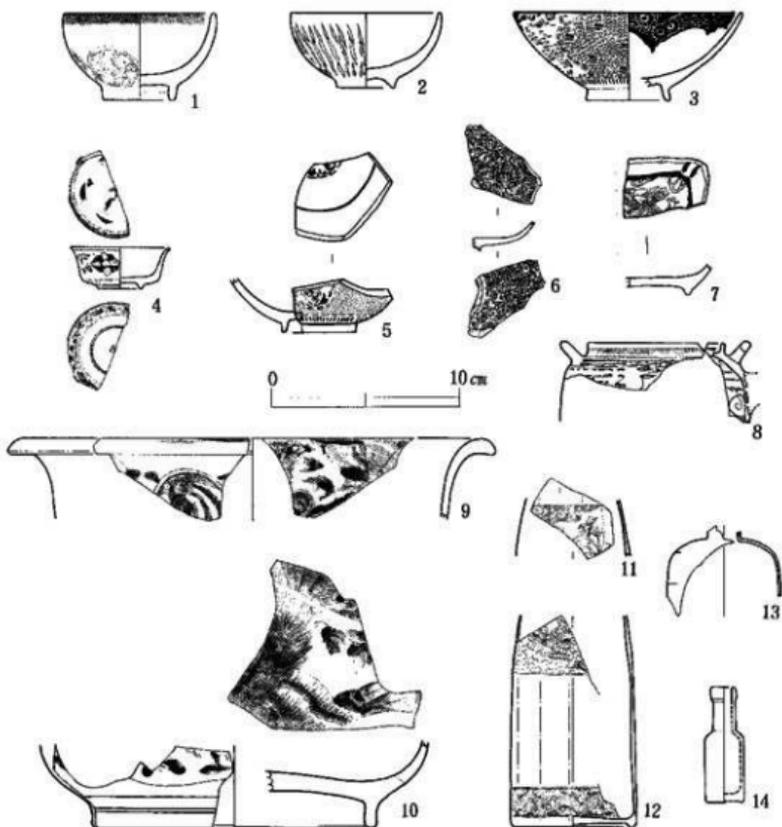
(単位 cm)

番号	種類	器形	法量	胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径			
1	磁器	茶碗	4.6, 8.0, 3.2		白色系	1/2欠損
2	磁器	茶碗	4.0, 8.0, 3.0		薄緑色系	1/2欠損
3	磁器	飯 茶碗	4.7, 12.0, 4.5		白灰色系	1/2欠損

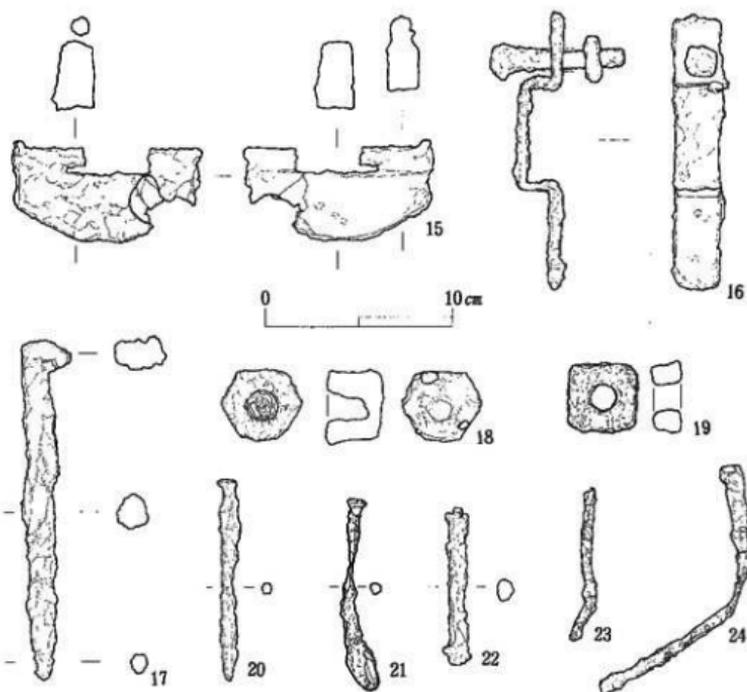
番号	種 類	器形	法 量	胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径			
4	磁器	猪口	2.2, 5.2, 2.3		白色系	外面はブルーの文様 内面に絵がある 底に文字あり 1/2欠損
5	磁器	飯 茶碗	—, —, 3.9		白色系	破片
6	磁器	皿	—, —, —			破片
7	陶器	皿	—, —, —		緑色	龍の文様がある 破片
8	磁器	注口	—, 7.2, —		白色系	ブルーにより文様が施される 破片
9	磁器		—, 24.5, —		くすんだ乳白 白色系	染付? 破片
10	磁器	皿	—, —, 14.8		くすんだ乳白 白色系	染付? 破片
11	磁器	徳利	—, —, —		白色系	12と同一個体であろう 破片
12	磁器	徳利	—, —, 6.3		白色系	1/2欠損
13	ガラス	壺	—, —, —		無色	薬を入れた容器であろう 破片
14	ガラス	壺	6.15, 1.2, 2.0		コバルトブルー	
15	鉄製品	錠前				
16	鉄製品					門用の金具
17	鉄製品					
18	鉄製品	ナット				
19	鉄製品	ナット				
20	鉄製品	釘				
21	鉄製品	釘				
22	鉄製品	?				
23	鉄製品	?				
24	鉄製品	?				



第12图 B区1号土坑出土遗物 (1/3)



第13图 B区出土遗物 (1/3)



第14圖 B区出土鉄器 (1/3)

Ⅶ ま と め

今回の調査では、前章まで見て来たように縄文時代と明治期の遺構と遺物が検出された。

縄文時代は遺構は確認されなかったものの、前期～中期・後期の土器片が多く採集され、当該地域に古くから人間の存在したことが理解される。ただし土器片は磨滅を受けたものが多かった。また石器の出土が比較的多かったことは、地域的な特色を物語っているのであろうか。同時代の遺跡は今回の調査区域から南側の畑に広がっており、大規模な集落址が予想される。

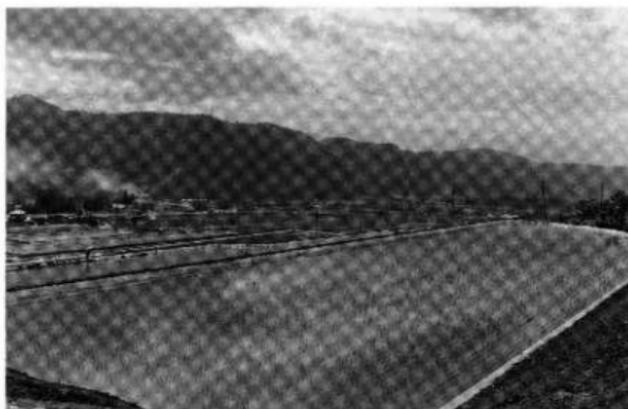
B区における井戸跡の発見と周辺からの様々な遺物の出土は、図化出来ず報告書では掲載しなかったが瓦の破片も出土しており、本土に明治期の何らかの建物があったことが推測でき、詳細は伝わっていないが実際地元の伝承でも施設があったようである（本書9頁参照）。茶碗等を図化したのが、当時の生活の様相を知るうえで重要な発見と言えよう。近年では江戸時代から明治時代にかけての発掘調査も全国的に進展しており、埋蔵文化財発掘調査によって明らかになる歴史的事実は膨大な量になっている。ただか百年前後以前のことも我々の記憶の内からは消え去ってしまい知らなくなってしまうことは数多く、考古学の果たす役割は多大なものがあると言える。本遺跡の発見も忘れ去られてしまった過去の歴史を補く鍵として重要で意義のあるものであったということが出来る。

お わ り に

堂地遺跡から発見された遺構と遺物は各時期の歴史を解明するうえで重要なものであるが、本報告は限られた作業のなかでなされたもので、遺構と比較的遺存状態の良い遺物を抽出し呈示したにすぎない。遺構・遺物の詳細な検討等がなされず不十分な点は否めないが、本書が今後の調査・研究に資することができれば望外の喜びである。

なお、本遺跡の発掘調査は夏季に行われ、地元の皆様の御理解と御協力により円滑に終了することができた。炎天下の暑い時期にもかかわらず調査に参加していた方々に厚くお礼を申し上げます。次第である。

写 真 图 版



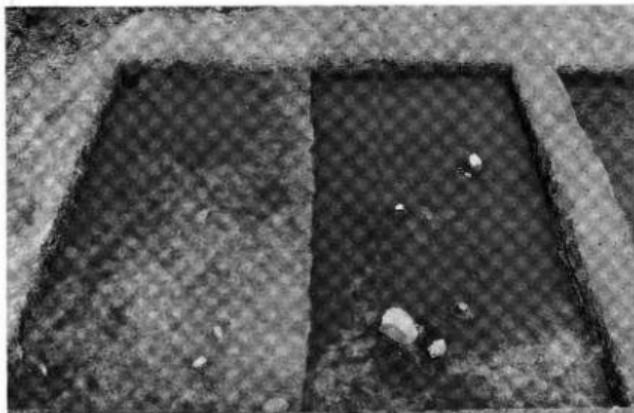
遺跡遠景



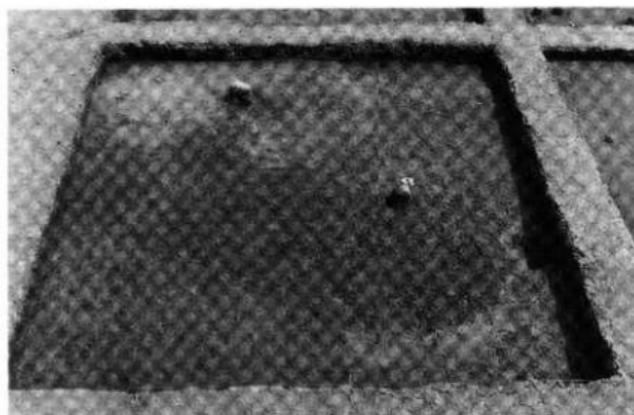
A区排土作業



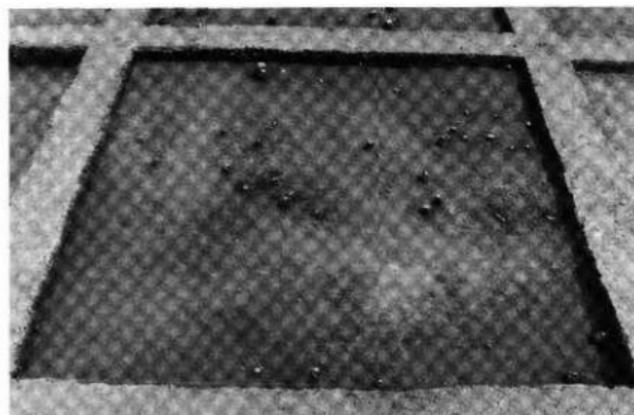
A区確認作業



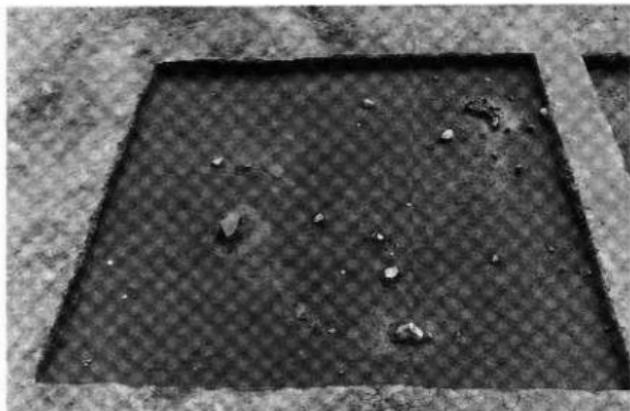
A-1-I



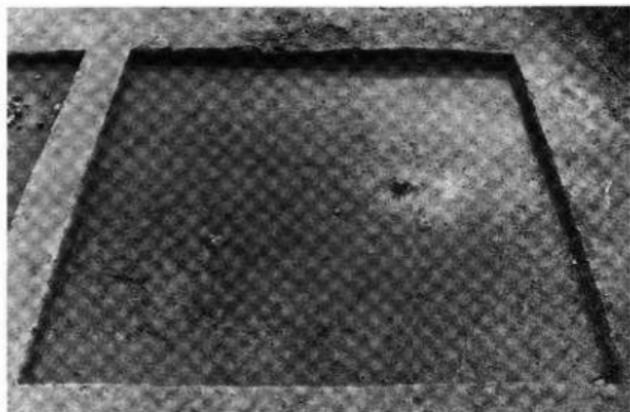
A-1-II



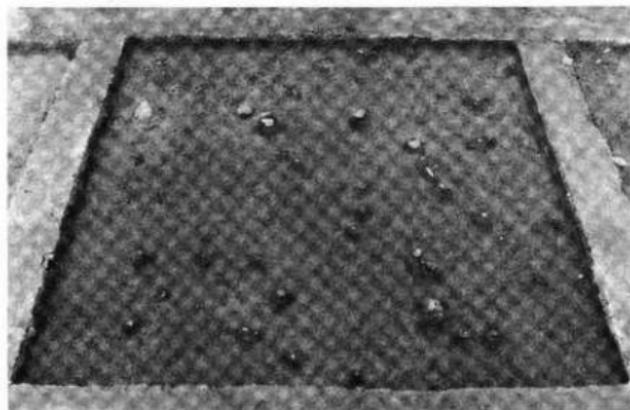
A-1-III



A-1-IV



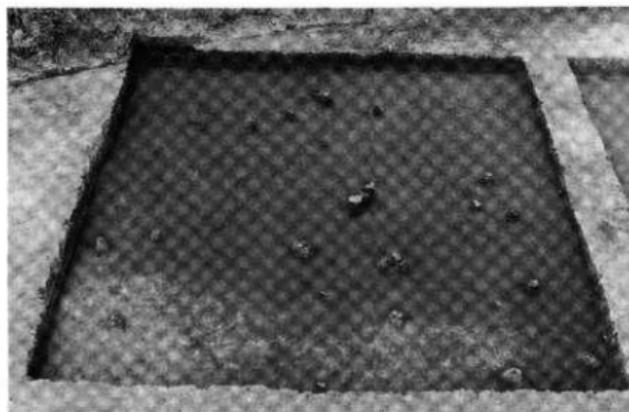
A-2-I



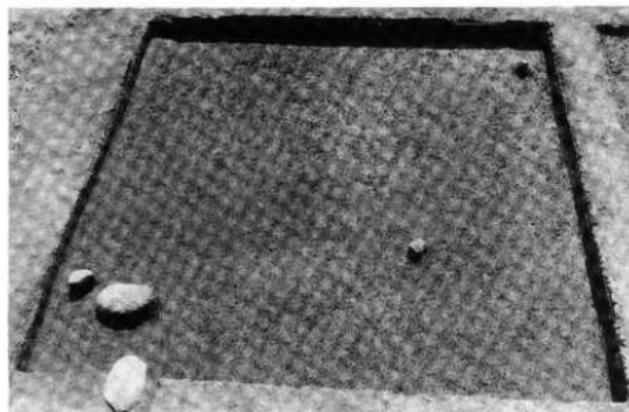
A-2-II



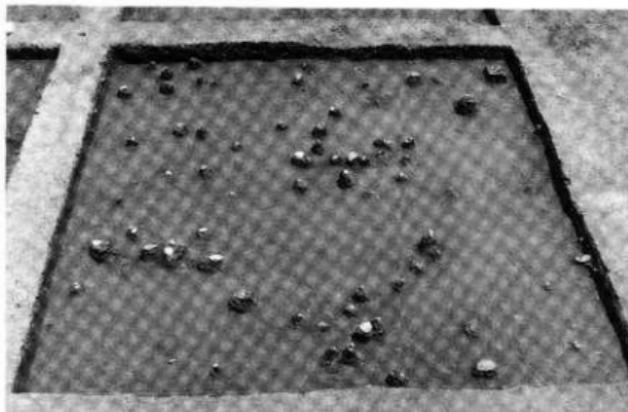
A区発掘風景



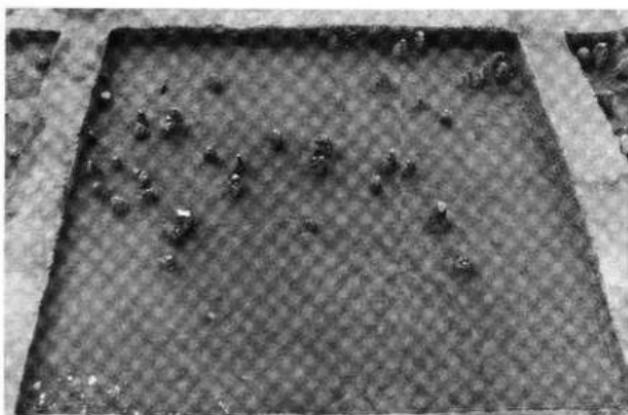
A-2-IV



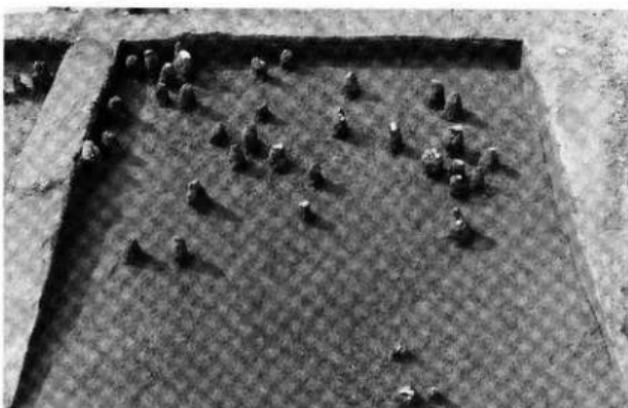
B-1-I



B-1-II



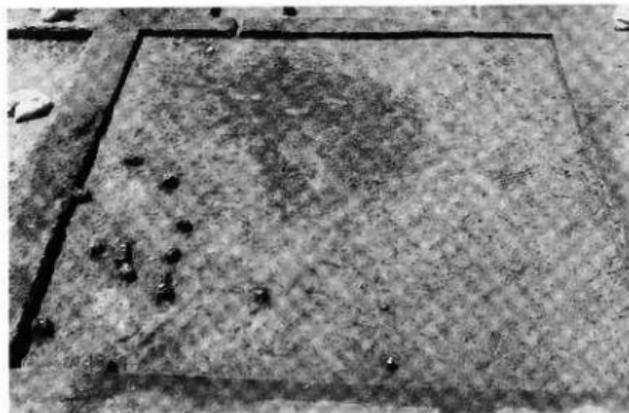
B-1-III



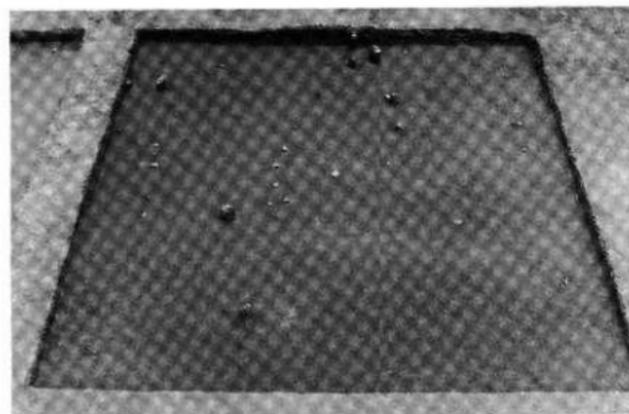
B-1-IV



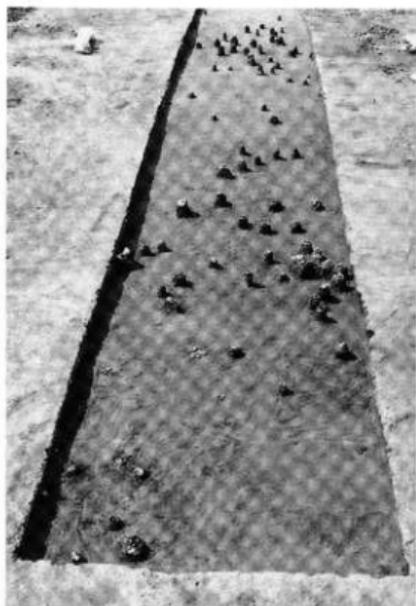
A区发掘風景



B-2-I



B-2-II



A区トレンチ



B区ピット群



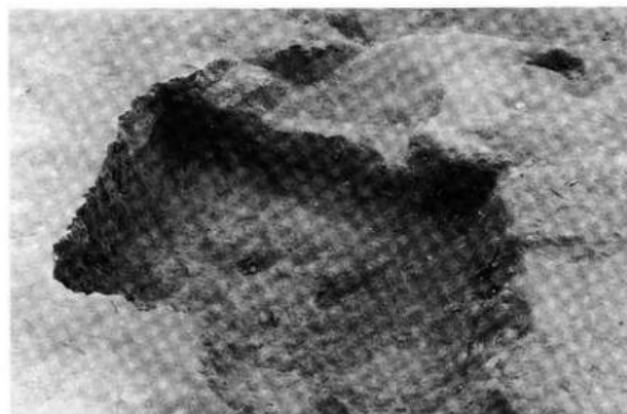
B区1号溝



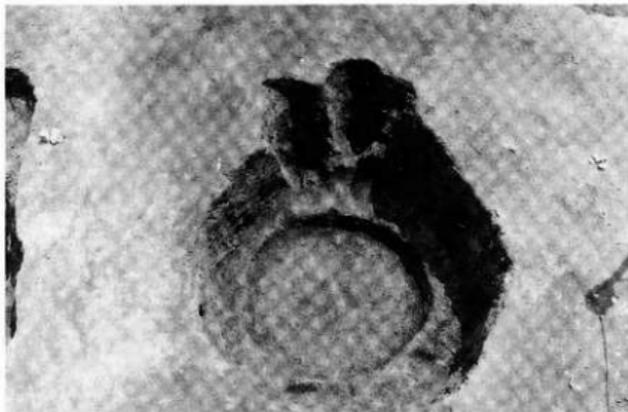
B区遺構確認作業



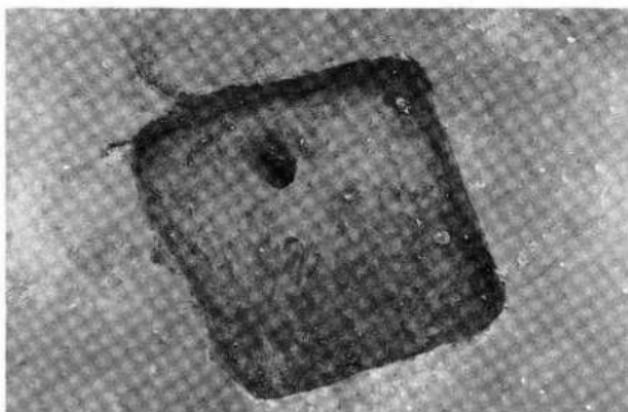
B区1号土坑



B区2号土坑



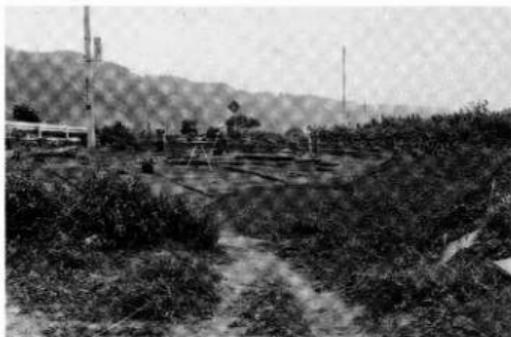
B区3号土坑



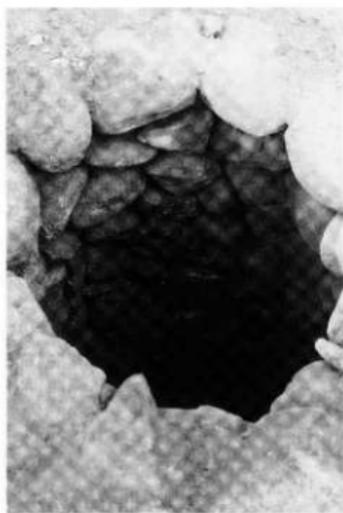
B区4号土坑



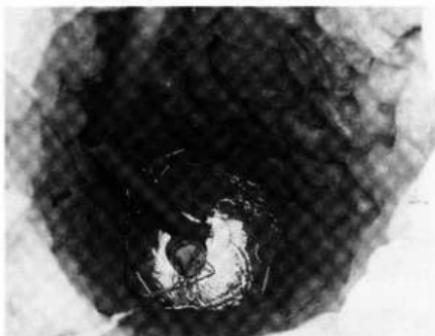
B区发掘風景



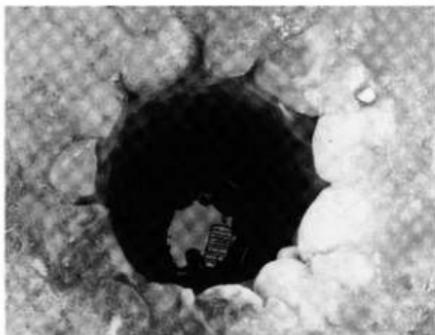
B区遗址近景



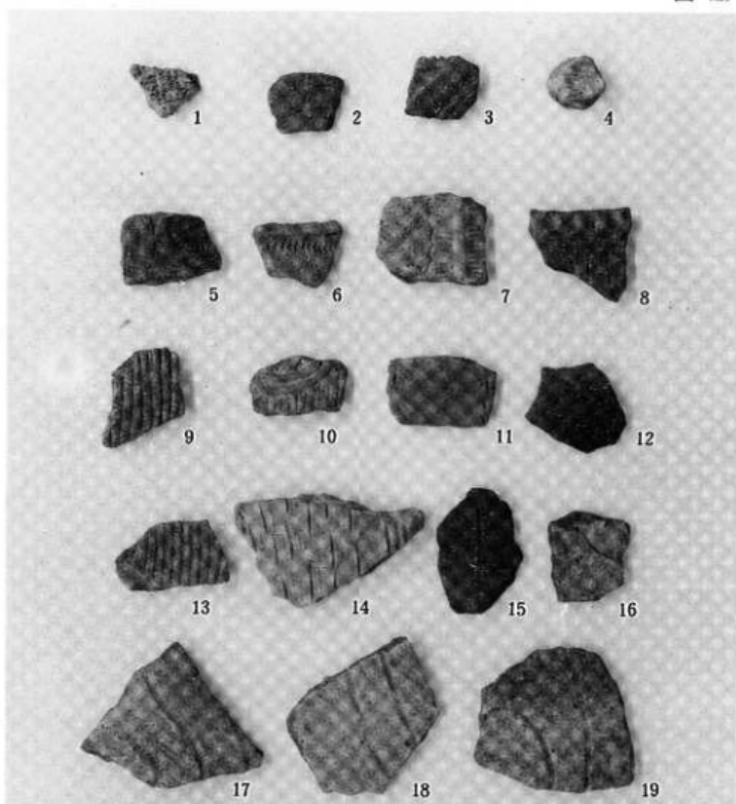
B区井户石积



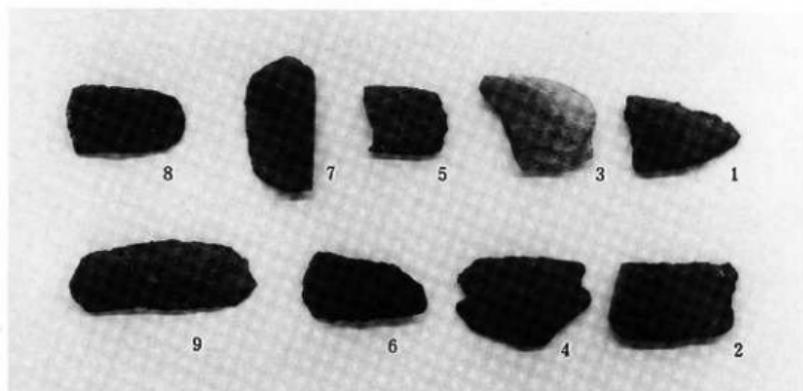
B区井户内部



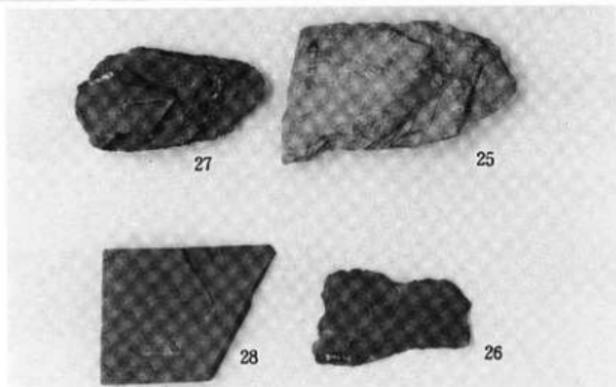
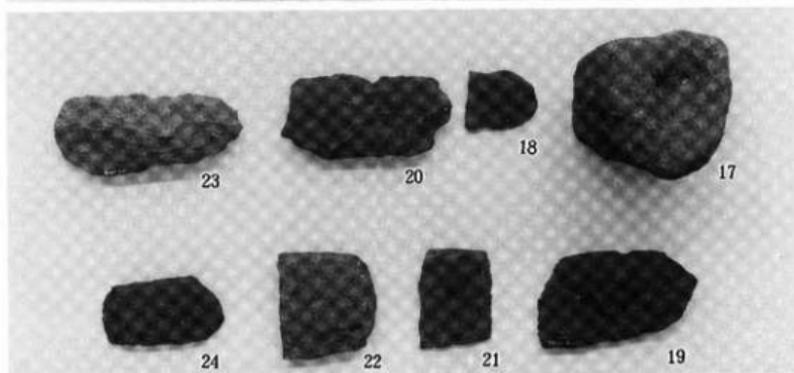
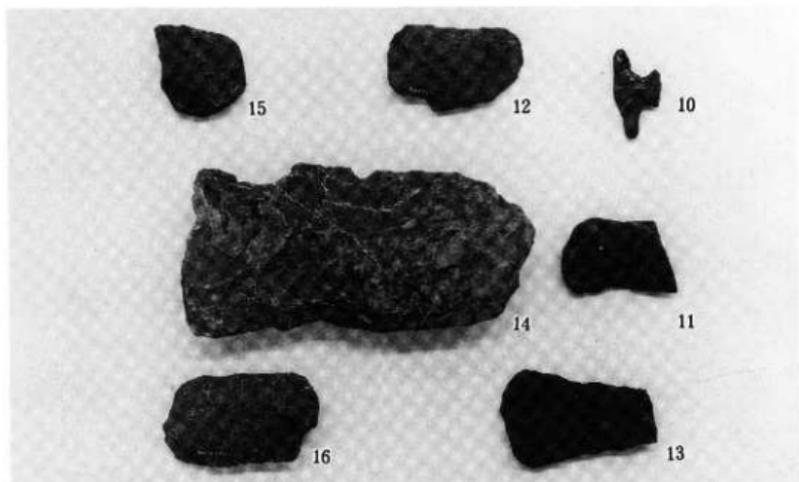
B区井户

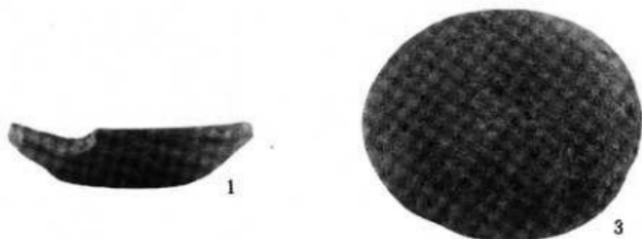


遠構外出土石器

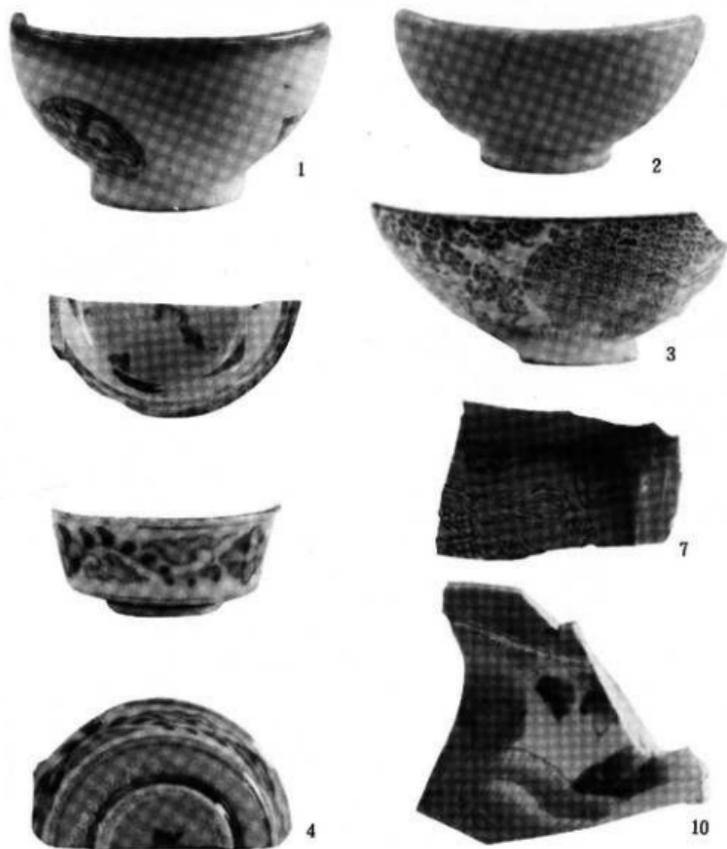


出土石器





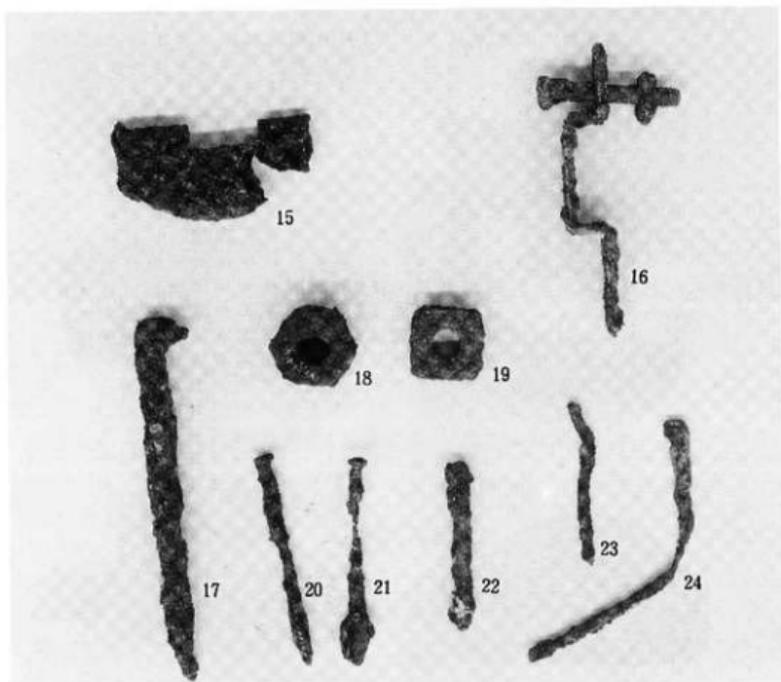
B 区 1 号 土 坑 出 土 遗 物



B 区 出 土 遗 物



B 区 出 土 遺 物



B 区 出 土 鉄 器

堂 地 遺 跡

発行日 平成4年3月31日

発 行 韮崎市教育委員会
〒407 山梨県韮崎市水神一丁目3番1号
TEL 0551-22-1111(内)

印 刷 アートプリント社

